

(和名なし) クラウゼノマイセス・プラシヌルス



Claussenomyces prasinulus

ビョウタケ目ビョウタケ科

[MB#311220]

採集者	中島淳志
採集日	2016/9/4
採集場所	静岡県富士宮市粟倉



◆ 観察ノート

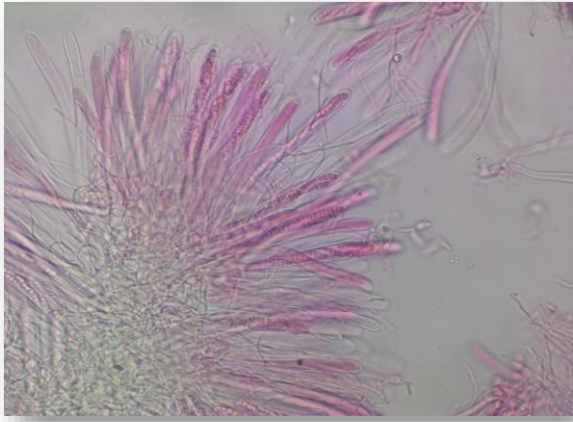
- ・腐朽材に生える、ごく小型 (0.5 mm程度) のチャワнтаケの仲間です
- ・子囊盤が緑色なのが何よりの特徴です
- ・子囊胞子には3つの隔壁があります、この隔壁数が本属の種レベルの重要な識別形質です

◆ 分類学的情報

- ・日本から既に報告されている種です (「日本産菌類集覧」)
- ・クラウゼノマイセス属は大きく緑色系の種と赤色系の種に分けられます、本種はもちろん前者です

◆ よく似た種との識別

- ・本属で他に日本から報告されているC・アトロヴィレンス (Hosoya, 2004) は子囊胞子の隔壁数がずっと多いです
- ・緑色のチャワнтаケといえば「ロクショウグサレキン」の仲間が思い浮かびますが、本種は色が全く異なり、材を染めることもありません
- ・同じく緑色の「コケイロサラタケ」は子囊盤がずっと大きく (3~4倍くらい) 、子囊盤中央が窪むので野外でも区別できます
- ・「オリーフサラタケ」はさらに大型 (数cm単位) で、子囊盤もクッション形ではなく杯形なので全く異なります



同定のエビデンス

(エビデンス1) Medardi, G., 2007. Overview of the genus *Claussenomyces* and a description of Italian collections. *Czech Mycology*.

(大菌輪 R3-03266)

	供試標本	Medardi (2007)
子囊盤の直径	平均0.4 mm (下図参照)	約0.5 mm
子囊盤の色	白色～帯黄緑色	淡黄色を帯びるごく淡い帯緑白色
子囊盤の形状	クッション形	レンズ形またはクッション形
子実層面	平滑	平滑
子囊盤の肉質	蠟質	蠟質
子囊のサイズ	平均80×8.5 μm	70-80(-105)×8-10 μm
子囊の形状	棍棒形	棍棒形
子囊のアミロイド性	非アミロイド	非アミロイド
子囊胞子のサイズ	平均13.8×4.2 μm (下図参照)	12-15(-16)×3-4 μm
子囊胞子の形状	円筒形でいくぶん屈曲	円筒形でいくぶん屈曲
子囊胞子の隔壁数	3隔壁	3隔壁
子囊胞子の隔壁部分	やや狭窄	-
二次子囊胞子	なし	なし
側糸	糸状	糸状

図1：子囊盤の直径 (n=100)

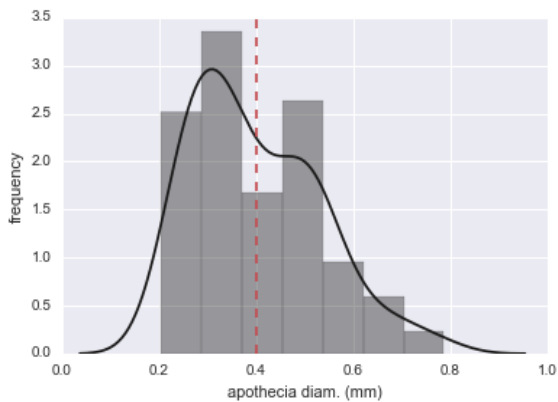


図2：子囊胞子のサイズ (n=50)

